

# 研修会報告

去る7月30日(日)に、滋賀県立大学にて2017年度第2回資格更新研修会(1)区分を開催しました。

今回の研修会では、「発達性協調運動障害について」と題し、武庫川女子大学文学部心理・社会福祉学科の石川道子教授にご講演いただきました。



昨今、様々な臨床現場で「不器用な子どもたち」への支援の必要性について、理解が深まってきています。本研修会は、発達性協調運動障害にかかわる医学的知見や、具体的な支援方法について学ぶことを目的に開催しました。

講義の前半では、発達性協調運動障害の特徴や、乳幼児期から成人期までのそれぞれの時期に問題となる点について学びました。問題は乳児期から始まっており、特に生後7~8か月の座位や四つ這い、立ち直り反射が確立していないため、その後の体幹コントロールや骨盤の安定性、バランスの発達に影響を与えることを説明していただきました。

講義の後半では、自閉症スペクトラムと発達性協調運動障害が合併している場合に見られる特性や、学校生活の様々な場面で見られる困難さ、具体的な支援方法について学びました。

講義を通して、発達障害児の乳幼児期から見られる様々な問題について、発達性協調運動障害の視点を持ってアセスメントし、支援方法を検討することの重要性について学ぶことができました。今後の実践につながる大変充実した研修会でした。



今回は、滋賀支部36名、他支部25名、一般1名、計62名の参加がありました。次回は平成29年度地域公開講演会を11月25日(土)に開催する予定です。積極的なご参加をお待ちしています。

多様なテーマにかかわる研修を今後も企画してまいります。臨床発達心理士としての資質を高め、県内の発達支援をさらに充実させていきましょう。